

梨 の 品 種 改 良 試 験 成 績

技 師 桂 澄 人

早生梨の優良品種を育成する目的で、昭和8年から試験に着手し、昭和14年迄に順次採種し、実生を行つて育成した結果今日迄に有望と思われる三品種を選抜したので、以下経過の概要と命名品種の特性を記して参考に供する。

経 過 の 概 要

育種の目標

早生（8月下旬迄に成熟するもの）で外観品質が優秀で、栽培容易なもの、樹勢も相当強く、黒斑病に強いもの、収量の多いもの等を主な目標とした。

採種の方法

八雲の自然交配及八雲に菊水の花粉を人工交配した八雲の自然交配を行つた理由は、手数の省略と、八雲の周囲に菊水、相模、祇園、玉翠、鴨梨慈梨等があつたので、これらとの自然交配が出来る見込みであつたのである。

採種年度及育成数

昭和8年、同9年、同12年、同13年、同14年、育成総数 497

育成後の取扱

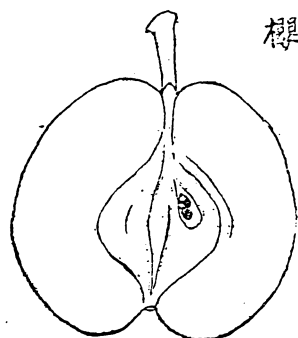
採種した種子は湿砂中に貯蔵し、翌年早春播種を行い、大部分はその翌年から当場内及板野郡大津村の委託試験地（担当者喜瀬千代一）に於て高接を行い、結果するに及んで果実の特性その他を毎年調査した。調査の結果全然見込みのないと思われるものは順次試験から除外した。

昭和20年夏委託試験地は平坦地梨園整理の厄に遇い、無断伐切せられ、一部此為に系統を根絶したものも出来たが、大部分は本場内に保存していたので、その後は場内だけで特性調査を行つた。然し乍ら終戦後は盗難多く満足の調査を遂行出来なかつた事は甚だ遺憾であつた。尚圃場の関係その他で栽培が極めて少量である為樹勢収量等実際経済栽培に移した場合の特性が充分調査出来なかつた。

昭和27年迄の成績を総合した結果、以下三系統を選抜命名し広く栽培家の試作に供する事とした。

新 品 種 特 性

桜（系統番号31号）

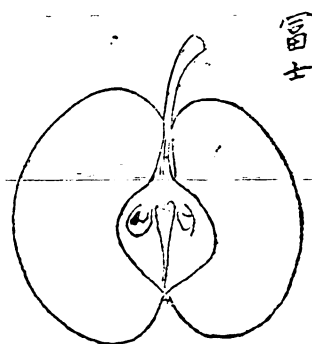


昭和12年採種、昭和16年より結果、親は八雲（自然交配）。

花、花弁5~6枚の単弁。新梢は淡褐色を呈する。熟期は8月上中旬。果実は肉質柔軟多汁、甘味良好で糖分11%内外、果心は小さい、果形は整円形、果皮は緑色で果点小さく、光沢あり、コルク層の発生が少い。外観は良好である。果の大きさ50匁乃至90匁樹勢は稍良好の方である。

適地 肥沃な平坦地に適する見込みである。過熟になると果心が変色し易い傾向があるが早生である為に早く採つて煮るものであるから大きな支障はないものと認めている。

富士（系統番号39号）

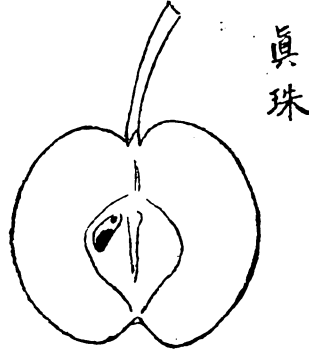


昭和12年採種、昭和16年より結果、親は八雲（自然交配）

花、花弁5枚乃至7枚の単弁。新梢は褐色を呈する。熟期は8月下旬。果実は肉質柔軟緻密、甘味良好で糖分13%内外、果心は小さい。果形は整った円形（稍腰高）である。果皮は緑色で果点少く、光沢はないがコルク層の発生少く、外観良好である。果の太さ60匁乃至100匁。樹勢は強く豊産。

適地 肥沃な平坦地に適する見込みである。過熟になると稍軟化変質し易い傾向がある。

真珠（系統番号87号）



昭和12年採種、昭和16年より結果、親は八雲（自然交配）。

花、花弁5枚乃至11枚。新梢は赤褐色を呈する。熟期は8月上中旬、果実は肉質柔軟緻密。甘味強く糖分は11%内外、果心は小さい。果形は整った円形（稍腰高）、果皮は緑色で果点小さく、光沢あり、コルク層の発生少く外観甚だ良好である。果の太さ40匁乃至50匁で稍小さい。樹勢は稍強い。

適地 肥沃な平坦地に適する見込である。